

中央情報専門学校の情報提供について

令和5年10月1日
学校法人 中央情報学園
中央情報専門学校

中央情報専門学校では、学校教育法、専修学校設置基準、更には各種関係法令を遵守して、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいます。とりわけ本校は、IT教育等を行う高等教育機関として、社会で求められる人材を輩出する、実践的職業教育を提供しています。本校は、こうした役割を担うに当たって、本校の情報を提供し、本校の教育活動への理解と協力、及び産業界との連携を促進することによって、産業界、所轄庁、学生、保護者、地域社会との信頼関係をより強めていきたいと考えています。

そのために、以下の項目について情報提供しています。

項目によっては、現在実施中のものも含め、最新の情報となるように努めています。

1. 学校の概要、目標及び計画
 - (1) 教育理念・校訓・教育方針および教育目標
 - (2) 理事長及び校長名、所在地、連絡先等
 - (3) 学校の沿革、歴史
 - (4) 学校保健安全計画
2. 各学科等の教育内容
 - (1) 入学者に関する受入れ方針及び収容定員、在校生数
 - (2) カリキュラム
 - (3) 進級・卒業の要件等
 - (4) 学習の成果として取得を目指す資格
 - (5) 卒業生数、卒業後の進路
3. 組織及び教職員の状況
 - (1) 教職員の組織
 - (2) 教職員数
4. キャリア教育・実践的職業教育
 - (1) キャリア教育への取組状況
 - (2) 実習・実技等の取組状況
 - (3) 就職支援等への取組状況
 - (4) 就職紹介の実績
5. 様々な教育活動・教育環境
 - (1) 学校行事への取組状況
 - (2) 課外活動等
6. 学生の生活支援
 - (1) 学生支援への取組状況
7. 学生納付金・就学支援
 - (1) 学生納付金の取扱い（金額、納入時期等）
 - (2) 奨学金、授業料減免等の経済的支援措置
8. 学校の財務状況
9. 学校評価
 - (1) 学校自己評価報告書および評価結果を踏まえた改善方策
 - (2) 学校関係者評価報告書および評価結果を踏まえた改善方策
10. 国際連携の状況
 - (1) 留学生の受入れ状況
 - (2) 外国の学校等との交流状況
11. 学則、その他の提供する情報
 - (1) 学則

中央情報専門学校では、本校の情報提供指針に基づいて、本校の情報を提供しています。

問い合わせ先

学校法人 中央情報学園 中央情報専門学校

〒352-0001 埼玉県新座市東北 2-33-10 TEL048-474-6651

情報提供責任者 事務部長 佐宗 房雄

1. 学校の概要、目標及び計画

(1) 教育理念・校訓・教育方針および教育目標

<教育理念>

中央情報専門学校は、21世紀の日本と世界で新しいビジネスを生み出す、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成する

<校訓>

自主・創造・誠実 ～学び続ける者だけが成功する～

<教育方針>

一人ひとりを大切にし、各人の能力と個性を最大限に伸ばし開花させることを教育の基本とする
授業は“新設・丁寧・わかりやすく”をモットーとし学生の自主的自発的学びを重視する

<教育目標>

1. 産業界が求める専門知識、専門スキルの修得
2. デザインを形にできる能力の育成
3. コミュニケーション能力の育成と人間的成長
4. 希望者全員の就職

(2) 理事長及び校長名、所在地、連絡先等

学校法人中央情報学園
理事長 岡本 比呂志

中央情報専門学校
校長 堀切 達也

学校法人 中央情報学園
中央情報専門学校
〒352-0001 埼玉県新座市東北 2-33-10
TEL:048-474-6651 FAX:048-475-1814
E-mail:ccc@ccmc.ac.jp <http://www.ccmc.ac.jp/>

(3) 学校の沿革、歴史

- 1987年 1月 埼玉県知事より学校法人中央情報学園の設立認可並びに中央情報専門学校の設置認可
4月 中央情報専門学校開校
- 1988年 9月 通産大臣より情報化人材育成連携機関委嘱校の指定を受ける
- 1990年 4月 中央情報専門学校に情報ビジネス科開設
- 1997年 7月 中央情報専門学校創立 10周年記念校舎増改築工事竣工
- 1999年 3月 雇用・能力開発機構埼玉センターの委託により、「緊急中高年就職推進委託訓練」を開始する
- 2000年 4月 中央情報専門学校に日本語本科開設
- 2006年 4月 中央情報専門学校に高度情報技術者（国家資格）学科、システム管理科、eビジネス学科、医療情報科開設
12月 「学園創立 20周年記念感謝の集い」を開催
- 2009年 9月 東京都豊島区に中央情報キャリアセンター開設
- 2010年 8月 東京都豊島区長より早稲田文理専門学校の設置認可を受ける
- 2011年 4月 早稲田文理専門学校開校（ビジネス起業経営学科、日中英通訳学科、IT モバイル学科、ゲーム・アニメ制作学科、組込みソフトウェア学科）
- 2012年 4月 中央情報専門学校に IT プロフェッショナル学科、情報システム学科、ビジネスデザイン学科開設
- 2014年 3月 中央情報専門学校情報システム学科が文部科学省より職業実践専門課程に認定される
- 2015年 2月 早稲田文理専門学校ゲーム制作学科、ビジネス起業経営学科が文部科学大臣より職業実践専門課程に認定される
- 2015年 4月 中央情報専門学校情報システム学科を IT・Web 学科に、Web ビジネス学科をビジネスデザイン学科に名称変更。早稲田文理専門学校ゲーム制作学科をゲームクリエイター学科にビジネス起業経営学科をクリエイティブビジネス経営学科に名称変更
- 2016年 4月 学園のシンクタンクとして未来デジタル研究所設置
- 2016年 10月 学園創立 30周年記念祝賀会開催
- 2017年 3月 早稲田文理専門学校 2号館開館
7月 学園創立 30周年記念誌発刊
8月 中央情報専門学校「2017年留学 AWARDS」専門学校・東日本部門受賞
- 2018年 2月 中央情報専門学校 ビジネスデザイン学科が文部科学大臣より職業実践専門課程に認定される
3月 早稲田文理専門学校 2号館改修工事完了
4月 早稲田文理専門学校に営業マネジメント学科新設
4月 中央情報専門学校 IT プロフェッショナル学科を ICT マネジメント学科に名称変更
8月 中央情報専門学校、早稲田文理専門学校共に「2018年留学 AWARDS」専門学校・東日本部門受賞
- 2019年 4月 早稲田文理専門学校 IoT・組込みソフトウェア学科をロボット・電子機器制御学科に、クリエイティブビジネス経営学科をビジネス起業経営学科に名称変更
8月 中央情報専門学校、早稲田文理専門学校共に「2019年留学 AWARDS」専門学校・東日本部門受賞
- 2020年 4月 早稲田文理専門学校 AI デザイン学科新設
4月 オンライン授業の実施
9月 中央情報専門学校「2020年留学 AWARDS」専門学校・東日本部門受賞
- 2021年 3月 早稲田文理専門学校 営業マネジメント学科が文部科学大臣より職業実践専門課程に認定される
4月 中央情報専門学校に AI プロジェクト学科新設

2021年9月 中央情報専門学校「2021年留学 AWARDS」東日本地区専門学校（技能・技術系）部門受賞

2023年9月 中央情報専門学校「2023年留学 AWARDS」東日本地区専門学校（技能・技術系）部門受賞、早稲田文理専門学校東日本地区専門学校（社会・文化系）部門受賞

(4) 学校保健安全計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
保健計画	新型コロナウイルス感染予防及び健康管理についての 講話 （オリエンテーション）	定期健康診断 （全学生、教職員） X線・血液・尿・心電図・視聴力等	未検査学生への対応 要再検査学生への対応	休暇中の健康管理などの指導	全校大掃除（教職員）	生活態度改善の指導	水質検査 コロナ・インフルエンザ等の予防指導	コロナ・インフルエンザ等の予防指導	休暇中の健康管理などの指導 全校大掃除（教職員）	コロナ・インフルエンザ等の予防指導	コロナ・インフルエンザ等の予防指導	生活態度改善の指導 全校大掃除（教職員）
			個別学生の健康状態に係る教員による指導等									
安全計画	オリエンテーション（学校のきまりと生活上の 諸注意） 新入生住居訪問（日本語本科） 住居・生活状況の確認	交通ルールの確認	消防設備点検 建築物定期点検 住居・生活状況の確認	休暇中の日常生活への指導	安全点検実施	住居・生活状況の確認	避難訓練 交通ルールの確認	新座警察講習（日本語本科）	消防設備点検 休暇中の日常生活への指導	安全点検実施 住居・生活状況の確認	住居・生活状況の確認	休暇中の日常生活への指導 住居・生活状況の確認

※緊急時（火災、地震、休暇中の事故）の対応については各々緊急体制、連絡網により対応する

2. 各学科等の教育内容

(1) 入学者に関する受入れ方針及び収容定員、在校生数

本校の課程、学科および収容定員は以下のとおりです。

分野	課程	学 科 名		修業 年限	入学 定員	総定員	備考
工業	専門 課程	AIプロジェクト学科		2年	20名	40名	昼間
		IT・Web学科		2年	90名	180名	昼間
商業 実務	専門 課程	ビジネスデザイン学科		2年	50名	100名	昼間
文化・ 教養	専門 課程	日本語本科 (進学2年コース)	I 部	2年	20名	40名	昼間 外国人
			II 部	2年	20名	40名	
		日本語本科 (進学1.5年コース)	I 部	1.5年	20名	40名	
			II 部	1.5年	20名	40名	
合 計					240名	480名	

ア) 入学者に関する受入れ方針

○工業専門課程、商業実務専門課程の入学資格（日本人）

- ① 高等学校卒業生及び令和6年3月高等学校卒業見込みの者。
- ② 高等専修学校(3年制)卒業生及び令和6年3月高等専修学校(3年制)卒業見込みの者。
- ③ 高等学校卒業程度認定試験(旧・大学入学資格検定)に合格した者。
- ④ そのほか上記と同等以上の学力があると認められる者。

○工業専門課程、商業実務専門課程の入学資格（留学生）

- ① 外国において、通常の課程による12年間以上の学校教育を修了した者。
- ② 専門学校(専門課程)において、教育を受けるに足りる日本語能力を有する者。(法務大臣が告示をもって定める日本語教育施設において一定期間の日本語教育を受けた者)
- ③ 日本語能力試験または日本留学試験を受験している者、または入学までに受験する者。
(望ましいレベル：日本語能力試験 N2 または N3 以上合格、日本留学試験日本語 200 点以上)
- ④ 在学中に必要な、すべての経費の支払能力のある者。
- ⑤ 資格外活動許可の範囲(週28時間以内)を遵守できる者。
- ⑥ 日本の法律及び学則を遵守し、授業に真面目に出席し、必ず卒業する者。
- ⑦ 現在、在籍中の学校の出席率(時間数)が原則として90%以上である者。

○文化・教養専門課程の入学資格

- ① 本国において通常の課程による12年以上の学校教育を修了した者。
- ② 本校において上記と同等以上の学力があると認められる者。
- ③ 申請時まで日本語学習を150時間以上修了している者。
- ④ 本校在学中の学費・生活費、及び、進学のために必要となる学費について支払いを保証し、且つその根拠書類が提出できる経費支弁者を持つ者

イ) 学科別在校生数

令和5年5月1日現在

分野	課程	学 科 名	在校生数
工業	専門課程	AIプロジェクト学科	22名
		IT・Web学科	181名
商業・実務	専門課程	ビジネスデザイン学科	137名
文化・教養	専門課程	日本語本科（進学2年コース）	101名
		日本語本科（進学1.5年コース）	27名
合 計			468名

(2) カリキュラム

中央情報専門学校では、企業等の役職員からなる教育課程編成委員会にて、教育課程編成の基本方針を策定し、企業等との連携によって、授業科目、授業内容、授業方法までを含めた実践的かつ専門的な職業教育を実施しています。

AIプロジェクト学科

科目名	1年次 授業時間数	2年次 授業時間数
基本科目	288	216
専門科目	504	504
総合科目	72	144
授業時間数合計	864	864

基本科目:ビジネスコミュニケーションⅠ・Ⅱ、職業とキャリアⅠ・Ⅱ、ICT活用Ⅰ・Ⅱ、情報学基礎

専門科目:コンピュータサイエンス、AIビジネスⅠ・Ⅱ、クラウド活用、数理統計入門、データサイエンスⅠ・Ⅱ、AIエンジニアリングⅠ・Ⅱ

総合科目:総合教養Ⅰ・Ⅱ、卒業制作

※年間の授業週数は、36週を原則とし、授業の1単位時間は45分とする。

※1年間の授業時間数は864時間とし、2年間の総授業時間数は1,728時間とする。

※本校の専門課程の授業科目の授業時数を単位数に換算する場合には、講義または演習にあつては18時間をもって1単位、実習、実技にあつては36時間をもって1単位とする。

IT・Web学科

科目名	1年次 授業時間数	2年次 授業時間数
基本科目	288	216
専門科目	504	432
総合科目	72	216
授業時間数合計	864	864

基本科目:ビジネスコミュニケーションⅠ・Ⅱ、職業とキャリアⅠ・Ⅱ、ICT活用Ⅰ・Ⅱ、情報学基礎

専門科目:コンピュータサイエンス、AIイノベーション、プログラミングⅠ・Ⅱ、Webシステム開発Ⅰ・Ⅱ、企業・業界研究Ⅰ・Ⅱ

総合科目:総合教養Ⅰ・Ⅱ、卒業制作

※年間の授業週数は、36週を原則とし、授業の1単位時間は45分とする。

※1年間の授業時間数は864時間とし、2年間の総授業時間数は1,728時間とする。

※本校の専門課程の授業科目の授業時数を単位数に換算する場合には、講義または演習にあつては18時間をもって1単位、実習、実技にあつては36時間をもって1単位とする。

ビジネスデザイン学科

科目名	1年次 授業時間数	2年次 授業時間数
基本科目	288	216
専門科目	504	504
総合科目	72	144
授業時間数合計	864	864

基本科目:ビジネスコミュニケーションⅠ・Ⅱ、職業とキャリアⅠ・Ⅱ、ICT活用Ⅰ・Ⅱ、情報学基礎

専門科目:労務生産管理Ⅰ・Ⅱ、マーケティング企画Ⅰ・Ⅱ、簿記会計・経営Ⅰ・Ⅱ、企業・業界研究Ⅰ・Ⅱ

総合科目:総合教養Ⅰ・Ⅱ、卒業制作

※年間の授業週数は、36週を原則とし、授業の1単位時間は45分とする。

※1年間の授業時間数は864時間とし、2年間の総授業時間数は1,728時間とする。

※本校の専門課程の授業科目の授業時数を単位数に換算する場合には、講義または演習にあつては18時間をもって1単位、実習、実技にあつては36時間をもって1単位とする。

日本語本科進学2年コース

科 目 名	1年次 授業時数	2年次 授業時数
日本語初歩(基礎から日常会話)	800時間	
日本語表現文型1(日本語能力3級程度)		220時間
日本語表現文型2(日本語能力2級程度)		180時間
日本語教科書上級1(日本語能力1級程度)		200時間
日本語教科書上級2(小説作品鑑賞・読解)		200時間
授業時数合計	800時間	800時間

※年間の授業週数は、40週を原則とし、授業は1時限45分を原則とする。

日本語本科進学1.5年コース

科 目 名	1年次 授業時数	2年次 授業時数
日本語初歩(基礎から日常会話)	800時間	
日本語表現文型(日本語能力2級程度)		220時間
日本語教科書上級1(日本語能力1級程度)		180時間
授業時数合計	800時間	400時間

※年間の授業週数は、40週を原則とし、授業は1時限45分を原則とする。

(3) 進級・卒業の要件等

ア) 出席率の計算

本校は1年間の「出席すべき授業」を864時間としています。これに対して講義形式、実習形式、演習形式の授業、学校行事・校外学習・イベントを含めた1年間の授業に出席した時間数が「出席した授業の回数」として出席率が計算されます。

イ) 授業科目の種類

授業科目は以下の3つの種類に分けられます。

授業科目の種類	場所	平常点	期末試験
講義	座学教室での講義	小テスト・課題提出・学習態度・意欲	筆記試験
実習	実習室使用	小テスト・課題提出・学習態度・意欲	課題提出
演習	科目によって異なる	レポート提出など	レポート提出など
学校行事など	行事によって異なる	レポート提出など	レポート提出など

ウ) 成績評価の要素と成績点の算出方法

各授業の成績は、1) 平常点、2) 期末試験を足した成績点として数値で評価されます。

1) 平常点

平常点とは授業ごとのレポート・課題の提出状況や小テストの結果、授業中の態度など、授業に取り組む姿勢を評価します。

2) 期末試験

前期（9月）と後期（2月）に各科目の試験を実施します。期末試験の結果と平常点を合わせたものが科目成績となります。

3) 成績評価の方法

各科目の成績点はA、B、C、D、Fの5段階で評価されます。単位を取得できるのはA、B、C、Dの4つです。Fの場合は単位が与えられません。

A	90点以上	合格
B	75点以上 ～ 89点以下	
C	60点以上 ～ 74点以下	
D	50点以上 ～ 59点以下	
F	50点未満	不合格

各科目の成績評価は、A=4、B=3、C=2、D=1、F=0として成績評価平均点（GPA）を算出し、クラス替えや大学推薦、奨学金対象者選考などの参考値とします。

エ) 進級・卒業の要件

本科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、試験に合格し所定の単位を取得した者を卒業とし、卒業証書を授与します。

進級・卒業の要件は、(a)出席率と(b)成績です。

(a) 出席率 80%以上、出席すること

進級または卒業するためには出席率(時間数)が80%以上である必要があります。出席率が80%に満たない学生は補講対象となります。また極端に出席率の悪い学生は進級・卒業不認定となります。

(b) 80%以上の単位を取得すること

各科目には単位という数字がついており、「D」以上の成績を取得することで単位を得ることができます。年間必要単位は学科や学年ごとに異なります。進級または卒業するためには年間単位のうち80%以上取得する必要があります。

オ) 専門士の称号付与

「専門士」は短期大学卒業と同格 ～大学3年次編入が可能～

(AIプロジェクト学科、IT・Web学科、ビジネスデザイン学科の各卒業生)

平成10年6月に学校教育法が改正され、平成11年4月から専門学校修了者が大学の2年次または3年次に編入学出来るようになりました。編入学出来る資格は、専門課程の修業年限が2年以上で、総授業時間数1700時間以上の場合です。

これまで、専門学校を卒業後、大学に入学しようと考えている学生は、大学1年次から入り直さなければならなかったのが改善され、これによって専門学校は法律的にも短大と同格となり、名実共に高等教育機関として位置づけられることになりました。

(4) 学習の成果として取得を目指す資格

ア) 各学科の取得を目指す資格

1) AI プロジェクト学科

IT パスポート、Python3 エンジニア認定基礎試験、
AWS 認定クラウドプラクティショナー、
G 検定、Python3 エンジニア認定データ分析試験、
iBut、日本語能力試験 (留学生)

2) IT・Web 学科

IT パスポート、基本情報技術者、応用情報技術者、
CCNA、OCJP、Java プログラミング能力認定試験、
実践プログラミング技術者試験、情報処理技能検定表計算、
文書デザイン検定、iBut、日本語能力試験 (留学生)

3) ビジネスデザイン学科

日商簿記検定、サービス接客検定、秘書技能検定、
ビジネス実務マナー検定、情報処理技能検定 表計算、
文書デザイン検定、プロモーションプランナー、
プロモーションプロデューサー、外国人雇用管理主任者、
iBut、日本語能力試験 (留学生)

4) 日本語本科

日本留学試験
日本語能力試験 N1、日本語能力試験 N2、日本語能力試験 N3

(5) 卒業者数、卒業後の進路

ア) 令和4年度進路状況

進路カテゴリ	人数	構成比
就職	140	85%
進学(大学)	4	2%
進学(その他)	1	1%
帰国その他	19	12%
合計	164	100%

※就職希望者の就職率92%

イ) 令和4年度 主な就職先

(株)メイテック・フィルダーズ、アルテンジャパン(株)、(株)ミライト・モバイル・イースト、(株)パーソンズ、(株)ブレインズシステム、(株)アリーナ・プロフェッショナル、アンドロボテックス(株)、FPT ジャパン HD(株)、GEL 研究所(株)、東和ソリューションエンジニアリング(株)、(株)スカイテック、(株)サンコム、ソフトテック(株)、リゲルソフト(株)、(株)ブライトスター、(株)サーランド・アイエヌイー、(株)カオピース、(株)井上通信、ITX コミュニケーションズ(株)、(株)リロググループ、(株)DD ホールディングス、(株)ブロンコビリー、(株)ゼンショーホールディングス、(株)焼肉坂井ホールディングス、日東カストディアル・サービス(株)、(株)マネジメント・シェルパ・クリエイト、(株)グランベルホテル、(株)伊藤園ホテルズ、博多ホテルズ(株)、(株)四季リゾート、(株)シルバーボックス・プリンシパル、(株)リンクスタッフ、大三ミート産業(株)、(株)アグリカルチャーセンター、小山産業(株)、他

ウ) 令和4年度 主な進学先

上海大学、北京言語大学、西武文理大学、足利大学他

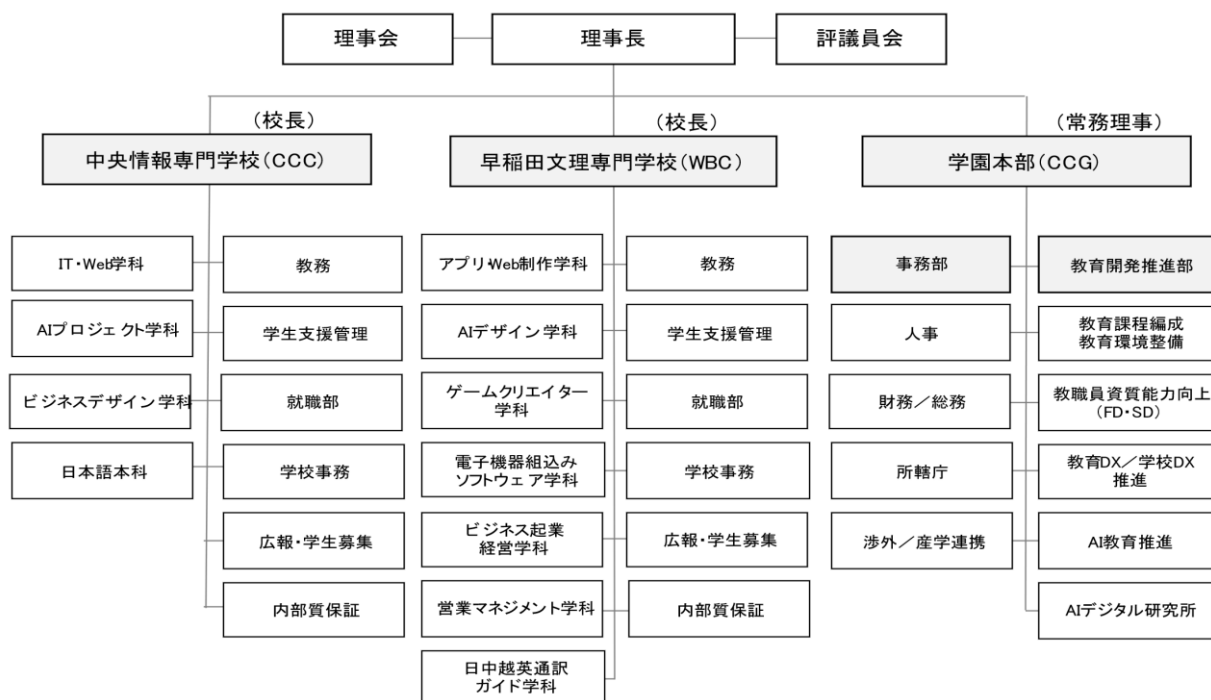
3. 組織及び教職員の状況

(1) 教職員の組織

ア) 組織図

中央情報学園組織図

2023. 4. 1



(2) 教職員数

ア) 教職員数

分野	課程	学科	専任 (常勤)	兼任 (非常勤講師)
工業	専門課程	AIプロジェクト学科	2人	1人
		IT・Web学科	6人	2人
商業実務	専門課程	ビジネスデザイン学科	6人	1人
文化・教養	専門課程	日本語本科	5人	7人
教員合計			19人	11人
事務職員			8人	2人

4. キャリア教育・実践的職業教育

(1) キャリア教育への取組状況

本校では、IT系科目とともにビジネス系科目にも力を入れており、「ビジネスコミュニケーションⅠ、Ⅱ」「職業とキャリアⅠ、Ⅱ」といった科目で、以下の方針に基づいて講義、演習を行っています。

- 1) 就職や進学といった進路に関する知識を深める
- 2) IT業界の様々な職種を理解する
- 3) 学生が自らのライフプランを作成する
- 4) それぞれの進路に進むためにどのような知識や技術が必要となるか、どのような書類を入手しておく必要があるか、スケジュールも含め検討の上、準備を開始する
- 5) 就職希望の学生には履歴書の書き方指導
- 6) 大学院進学希望の学生には研究計画書の書き方指導
- 7) 進学希望の学生に入学試験応募書類の書き方指導
- 8) 就職希望および進学希望の学生に模擬面接指導

(2) 実習・実技等の取組状況

本校は、情報技術の専門学校として開講以来、実技実習授業に注力しており、授業内容に即した設計の高性能PCとプロが使用する最先端のソフトウェア、授業支援システムにより、企業の開発現場が再現できる実践的な教育環境が整備されています。

また、学生全員に、マイクロソフト365のアカウントが付与され、「マイPC」支援制度により、学校および自宅での学習に活用されています。

特に、下記の科目では、企業との連携により、開発現場の講師陣による実践的かつ専門的な実習および演習を行っています。

科目名	年次	提携企業
企業・業界研究Ⅰ、Ⅱ	1年・2年	一般社団法人日本マナー教育アカデミー 株式会社ブーミング モノグローブイデア合同会社
職業とキャリアⅠ、Ⅱ	1年・2年	一般社団法人日本マナー教育アカデミー 株式会社グローアップ NPO法人 国際職業開発協会
マーケティング企画Ⅰ、Ⅱ	1年	一般社団法人日本販路コーディネータ協会
プログラミングⅠ、Ⅱ	1年・2年	株式会社スペースリンク
Webシステム開発Ⅱ	2年	株式会社スペースリンク

また実習室については、以下の設備とソフトウェアを使用しています。アプリケーションについては、代表的なものを掲載しています。

	201 教室	Web システム・ラボラトリー
PC 台数	37 台	65 台
OS	Windows 11	Windows 10
Office 系	Microsoft Office 2021	Microsoft Office 2016

(3) 就職支援等への取組状況

ア) 令和 4 年度 合同企業説明会の実施状況

- ・ 4 月 (3 回実施)
(東京商工会議所企業と学校の情報交換会、ネバーロード合同企業セミナー、雇用対策協議会)
- ・ 5 月 (2 回実施)
(東京都中小企業家同友会合同企業説明会、埼玉労働局外国人留学生対象企業説明会)
- ・ 6 月 (6 回実施)
(GGS 埼玉合同企業説明会、東京都中小企業同友会合同企業説明会、ハリアー研究所就職情報交換会、東京労働局合同企業説明会、雇用対策協議会埼玉合同企業説明会、東京外国人ハローワーク合同企業説明会)
- ・ 7 月 (2 回実施)
(あさがくナビ就職博、ハリケンナビ就職博)
- ・ 8 月 (1 回実施)
(雇用対策協議会埼玉合同企業説明会)
- ・ 9 月 (2 回実施)
(東京都労働局合同企業面接会、ネバーロード合同企業説明会)
- ・ 10 月 (2 回実施)
(雇用対策協議会埼玉合同企業説明会、ネバーロード合同企業説明会)
- ・ 11 月 (3 回実施)
(GGS 埼玉合同企業説明会、ネバーロード合同企業説明会、TOKYO 新卒就職フェア合同就職面接会)
- ・ 12 月 (1 回実施)
(いたばし合同企業説明会)
- ・ 1 月 (1 回実施)
(ネバーロード合同企業説明会)
- ・ 2 月 (1 回実施)
(ネバーロード合同企業説明会)

イ) 令和 4 年度 学内説明会・選考会の実施状況

- ・ 4 月 20 日 (株)システムロジックス
- ・ 4 月 21 日 (株)アークシステム
- ・ 4 月 22 日 安信(株)
- ・ 4 月 27 日 (株)エルエスアイ開発研究所
- ・ 4 月 28 日 (株)ブレインズシステム、(株)ベジコープ

- ・5月11日 (株)LainZ
- ・5月12日 (株)コードダイナミクス
- ・5月18日 ブライザ(株)、(株)ヒューマンアール
- ・5月19日 (株)スカイテック
- ・5月20日 FPT ジャパン(株)
- ・5月25日 ナビオコンピュータ(株)
- ・5月26日 アクサス(株)
- ・5月27日 (株)フォー・ジェイ
- ・6月1日 大三ミート産業(株)
- ・6月8日 (株)アクロホールディングス
- ・6月9日 日本国民食(株)
- ・6月10日 東和ソリューションエンジニアリング(株)
- ・6月16日 リコージャパン(株)、(株)アントワークス
- ・6月17日 AQ ソリューションズ(株)
- ・6月29日 (株)テクノプロ テクノプロエンジニアリング社
- ・6月30日 ブライザ(株)
- ・7月1日 (株)VTI ジャパン
- ・7月6日 (株)ジェイテック
- ・7月7日 (株)カオピーズ
- ・7月8日 (株)NAL JAPAN、(株)ブロンコビリー
- ・7月1日 (株)VTI ジャパン
- ・7月13日 GEL 研究所(株)
- ・7月14日 アルテンジャパン(株)
- ・7月14日 (株)ゼンショーHD
- ・7月19日 (株)パーソル R&D
- ・8月24日 (株)マネジメント・シェルパ・クリエイト
- ・9月2日 (株)SMS データテック
- ・9月9日 (株)アリーナ・プロフェッショナル
- ・9月12日 (株)ベジユーブ
- ・9月13日 (株)サンコム、(株)マネジメントシェルパ・クリエイト
- ・9月14日 (株)大塚商会
- ・9月15日 (株)テクノプロ テクノプロエンジニアリング社
- ・9月22日 (株)井上通信
- ・9月27日 ブライザ(株)
- ・9月29日 (株)ブーミング
- ・10月13日 (株)アグリカルチャーセンター
- ・10月18日 (株)ヒューマンアール、日本国民食(株)
- ・10月20日 (株)ブーミング、K&K ソフト(株)
- ・10月27日 (株)アリーナ・プロフェッショナル
- ・10月27日 (株)ゼンショーホールディングス
- ・11月1日 (株)ブーミング
- ・11月7日 (株)シルバーボックス・プリンシパル
- ・11月8日 (株)ソフトテック
- ・11月10日 ホンダ自動車販売(株)
- ・11月30日 (株)ジェイテック
- ・12月7日 (株)リンクスタッフ (事務・営業職)、(株)リンクスタッフ (開発系)
- ・12月21日 (株)グラテック
- ・1月26日 一社) 国際人材教育振興協会
- ・2月9日 (株)Skywork
- ・2月16日 (株)パソナ特定技能説明会
- ・2月28日 ティンヴァン・ジャパン(株)

- ・2月28日 (株)焼肉酒井ホールディングス
- ・3月1日 NPO 法人国際職業開発協会
- ・3月13日 (株)Glow-Up

ウ) 企業インターンシッププログラム

なし

(4) 職業紹介の実績

中央情報専門学校では、厚生労働省の「学校の行う無料職業紹介事業関係業務取扱要領」に従い適切に職業紹介を行っています。

文部科学省の通達により、無料職業紹介の実績について情報公開いたします。

- ① 令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日）に当校の紹介を受け就職決定した者の数

	男	女	計
AI プロジェクト学科	4	4	8
IT・Web 学科	64	18	82
ビジネスデザイン学科	13	37	50
合計：	81	59	140

- ② ①のうち期間の定めのない労働契約を結んだものの数

	男	女	計
AI プロジェクト学科	4	4	8
IT・Web 学科	57	18	75
ビジネスデザイン学科	13	33	46
合計：	74	55	129

- ③ ②のうち就職から6ヵ月以内に解雇以外の理由で離職した者の数

	男	女	計
AI プロジェクト学科	0	0	0
IT・Web 学科	4	1	5
ビジネスデザイン学科	0	2	2
合計：	4	3	7

- ④ ②のうち③に該当するかどうか明らかでない者の数

	男	女	計
AI プロジェクト学科	0	0	0
IT・Web 学科	0	0	0
ビジネスデザイン学科	0	0	0
合計：	0	0	0

5. 様々な教育活動・教育環境

(1) 学校行事への取組状況

月	学校行事
4月	入学式 オリエンテーション 写真撮影 特別授業実施
5月	新入生歓迎イベント 健康診断
6月	校外学習（日本語本科） 前期中間試験（日本語本科）
7月	夏の校外学習（日本語本科） テーブルマナー講習（2年生） 夏季休暇
8月	夏季休暇 パソコン実習（日本語本科）
9月	クラスオリエンテーション・学年学科別集会 定期試験 前期期末試験（日本語本科）
10月	秋の校外学習（1年生） 避難訓練
11月	プレゼン大会中間発表
12月	後期中間試験（日本語本科） クリスマス会 冬季休暇
1月	冬季休暇 卒業旅行（日本語本科）
2月	定期試験 実力テスト プレゼンテーション大会（グランプリ）
3月	後期期末試験（日本語本科） 卒業旅行 卒業式 春休み

(2) 課外活動

＜最近の表彰実績＞

令和5年度 第3回 TechFUL Coding Contest
14位入賞

令和4年度 「彩の国さいたま ICT コンテスト 2022」
「さいたま市長賞」「ホームページ部門優秀賞」受賞

令和3年度 「彩の国さいたま ICT コンテスト 2021」
さいたま市長賞 FM NACK5 賞 W 受賞

令和2年度 第8回全国統一学生 ICT テスト
シルバー認定：1名、ブロンズ認定：9名

令和元年度 第20回 TechFUL 全国ハッカソン 全国第1位
第3回専門学校 HTML5 作品アワード入賞

平成30年度 彩の国さいたま ICT コンテスト 2018
ホームページ部門最優秀賞
特別賞（大宮アルディージャ賞）W 受賞

平成28年度 第21回 彩の国さいたまホームページ・プログラミングコンテスト
最優秀賞、特別賞（浦和レッドダイヤモンド賞）受賞

平成27年度 第20回 彩の国さいたまホームページコンテスト
優秀賞受賞

平成25年度 第18回 彩の国さいたまホームページコンテスト
特別賞（麒麟ビールマーケティング賞）受賞

6. 学生の生活支援

(1) 学生支援への取組状況

- ・各クラスの担任教員は、学生指導担当教員、進路指導担当と連携して、学生の希望とスキル、適性にあった進路指導を行っています。出席率の改善、学力向上に努めています。
- ・卒業後の進路は、多くの学生が就職を希望しています。就職担当教員は、就職先の開拓を行いながら学生一人一人の適性を見極めて、就職指導を行っています。
- ・心身の健康管理については、定期的に健康診断を行うとともに、カウンセリング、キャリアコンサルティング、メンタルヘルスマネジメントを勉強した教員を中心に個別相談を実施して、多方面からのアドバイスを行い、不登校、退学者の減少につとめています。
- ・休日でも急用等が発生したときは、専用の電話や Teams チャットにより、専任の職員が対応できる体制をとっています。特に母国から離れている留学生が、安心して留学生活ができるようにしています。
- ・学内で体調不良を訴えた場合、病院及び受診科の選定に戸惑いと不安を抱える学生も多いため、病院まで付き添い手続きを行う支援を実施しています。

7. 学生納付金・就学支援

(1) 学生納付金の取扱い（金額、納入時期等）

ア) 学納金

学 科	入 学 金 (入学時)	授 業 料 (年額)	実 習 費 (年額)	施設設備費 (年額)	合 計
AI プロジェクト学科	100,000	480,000	80,000	200,000	860,000 円
IT・Web 学科	100,000	480,000	80,000	200,000	860,000 円
ビジネスデザイン学科	100,000	480,000	80,000	200,000	860,000 円
日本語本科	50,000	480,000		80,000	610,000 円

イ) 納入時期

- ① 一括納入
- ② 分割納入（前期、後期）

入学時及び進級時に、一括納入か分割納入を選ぶことができます。

(2) 奨学金、授業料減免等の経済的支援措置

学生の家庭事情や就学態度、成績を総合的に判断して、学費減免など行う制度があります。また、出身高等学校等の推薦による「推薦入学」や「特待生入学」、「学士・社会人入学」及び外国人留学生を対象とした「学費特別減免制度」、「AO 入試制度」があります。

1年次の出席率・成績・資格取得・外部受賞等を総合的に評価し、学園独自の奨学金を支給する制度があります。

また、取得した資格により、学習奨励金を支給する制度があります。

8. 学校の財務状況

中央情報専門学校ホームページ (<http://www.ccmc.ac.jp/infomation/>) において、財務情報を公開しています。

9. 学校評価

(1) 学校自己評価報告書および評価結果を踏まえた改善方策

令和5年度学校自己評価報告書を公開しています。

中央情報専門学校ホームページ (<http://www.ccmc.ac.jp/infomation/>) からダウンロードできます。

(2) 学校関係者評価報告書および評価結果を踏まえた改善方策

産業界、企業等の役職員、地域の代表者からなる学校関係者評価委員会が、学校関係者評価報告書を作成しています。

令和5年度学校関係者評価報告書を公開しています。

中央情報専門学校ホームページ (<http://www.ccmc.ac.jp/infomation/>) からダウンロードできます。

10. 国際連携の状況

(1) 留学生の受入れ状況

本校は開校以来、IT系専門教育のパイオニアとして積極的に留学生を受入れ「グローバルIT人材の育成」を推進し、留学生採用企業と連携し企業ニーズに対応した教育を実施しています。

ア) 留学生の入学手続（資格・選考）について

- ・母国において、高校以上を（最低12年間の学校教育）卒業し、尚且つ日本語教育施設において一定期間の日本語教育を受けた者で、学科ごとの体験授業にて適性を認められた者について、筆記試験、書類審査及び面接で選考を行っています。留学生にあつては、日本留学試験230点以上もしくは、日本語能力検定N2レベル以上の者が望ましいとしています。
- ・入学選考は日本語学校の出席成績証明書の提出に加え、日本語試験、面接を全受験者に実施し、日本語力のレベル、経資支弁力など事細かに調査しています。

イ) 留学生の入学後の生活について

- ・希望者に対し入学時の提携寮の斡旋を行っています。また、日本学生支援機構の留学生学習奨励金や学校独自の奨学金給付制度を紹介しています。
- ・留学生にあつては安心して日本での学生生活を送れるよう「学校生活ガイドブック」「留学生の在留資格ハンドブック」を作成し、交通ルールや入管法、他の条例等、事細やかに

に説明し全留学生に配布しています。

- ・休日でも急用等が発生したときは、専用の電話や Teams のチャットにより、専任の職員が対応できる体制をとっています。特に母国から離れている留学生が、安心して留学生活ができるようにしています。
- ・留学生にとっては日本語の重要性に鑑み、日本語担当教員により日本語授業の実施により日本語留学試験、日本語能力検定試験を積極的に受験させています。

ウ) 留学生の卒業後の進路

- i) 就職希望者の 90%以上が就職しています。
- ii) 指定校推薦制度などを活用し、大学院、大学編入、大学進学、専門学校に進学しています。

(2) 外国の学校等との交流状況

北京工業大学と北京語言大学との留学生受入等の提携があります。
インドネシアのステイルマン国立大学、リア大学、インドネシア農科国立大学と協定を結び受け入れプログラムを提携しています。

1 1. 学則、その他の提供する情報

(1) 学則

学則を公開しています。

中央情報専門学校ホームページ (<http://www.ccmc.ac.jp/infomation/>) からダウンロードできます。

中央情報専門学校では、本校の情報提供指針に基づいて、本校の情報を提供しています。

問い合わせ先

学校法人 中央情報学園 中央情報専門学校

〒352-0001 埼玉県新座市東北 2-33-10 TEL:048-474-6651

情報提供責任者 事務部長 佐宗 房雄